

成田山不動尊印文大縁記

149
360



定價金參錢

017210-000-0

特16-775

成田山不動尊印文大縁記

三橋 吉兵衛／編

M27.5

ABE-0583



成田山御本懇藥三御山廣祖元家告白

登録商標



印 目

拙家製する所の薬効は則ち不動明王の利益の如し故に成田山へ
拙家より左記の如く奉寄附候なり
御膳料 金參百圓 本堂再建 金五拾圓 護摩木山三段九畝二拾六步此代
金百四拾圓 紺紙金泥大般若經五卷 金百圓 成田町田地八畝拾五步此代
金六拾圓 成田山地内へ玉垣奉納金四拾五圓二拾五錢 同燈臺金二拾六圓
東京深川公園地不動堂左右へ玉垣奉納金五拾六圓 合計金七百七拾六圓一拾五錢也

○成田山新勝寺並に成田山出張所へ成田山一粒丸從來より拙家に於て出店仕候
五千個寄附致し候なり

成田山東京へ開帳中は成田山一粒丸從來より拙家に於て出店仕候

元 祖



成田山一粒丸散
安産の大妙藥
サフランザイ
三包入参拾錢
成田山大日大聖不動明王へ備へし護摩御
膳にて丸ヒ上け候
大人小兒はら一切の大妙藥
一包壹錢貳錢參錢五錢拾錢貳拾錢
切きす一附にて効あり湯水に入てよし
無類の良薬あり

成田山一粒丸散

能 効

大人一度に拾粒 小兒四粒 一日に三度つ

○用 法
白湯よて用ゆ

●第一急病之氣附むしよくしやう●
虫をさる●たゞせき●りうゑん●胃病
はい病●なく血しら血●づつうめまい
はら●はき下しよよし●舟車のゑひ●
りむなもとあしく虫ふするよよし●水
あたり●くわくらん●ぶりそら●下り
●むねのやけのによし●酒の二日ゑひ
●せんきゅす白●酒毒とけし●はりは
りむこり●流行病の大妙藥●引風又甘粒
せんじ用てよし●尙又鳥犬の病●牛馬
の虫腹●拾五粒用て大効あり

不動尊印文大縁記



當山寶庫ふ秘し置御印文は人皇百三代
後柏原帝の御宇文龜九壬申年秋九月本尊江參籠せ一僧當國生實の
動の利鉢が呑み悲しき者悲み身命を抛て參籠し丹誠を凝せ處滿願の曉夢中よ不
染ければ正しく修行せし其頃生實も千葉家の四天王原越前守の領地よてその妻
女は世に稀ある痴症つよく我思ひ立しこと少一も後るへ時は俄よ
羅利の如くにあり人を捕へて打擲を折るも七月比事ありしが庭中
の池のあかふ蓮の花一莖を生じたりうの花精々として如來も花よ
在すがごとく美しかれば越前守の妻は花を詠めて誰か池中の蓮花よ
を取られどい、しかど侍婢は顔を見合せたれ行んといふものあし

妻は怒つて年も二八の侍女をとらへおのれ伺とてあかさるや早々花を取來れと襟引立て池の面へ突倒しければ小女は忽ち水底よ沈み一とたび浮みて奥力を白眼み憤恚の炎をつき亦水中に沈んで即時よ蛇身とあるこぞ懼しけれ小女ぞ見惑思惑の煩腦日夜ふいやまし奥力を始めとしての怨念は脳まされ苦しむこと阿鼻喚叫の地獄に異あらず越前守こそ此よしを見ていかある因縁あるやおの患を除うんと神に誓て祝詞を捧げ佛ふ頼んで小女成佛あさまめんと法華安樂行品の金口の所説提婆達多品の龍女成佛頻りよ修行せしろとも怨靈猶も烈しけれをさとも強勇の越前守十方に暮て氣も勞き鬱々寢むりし其夢耳神仙たる翁越前守ふ告でいわく蛇身成佛を願ひあはこの生實の村はづれに破れとる地藏堂あり此堂にて修行を凝らキ道心者なり此僧を招き教化を頼むべしとの夢のつけ越前守は正夢を受て直ふ地藏堂へ使を走ら一道譽を請じ行々の物語して

頼みければ否をもいわす領掌一丹誠を抽如來開經たる無量義經より法華二十八品乃至結經の觀普賢經よ至る迄供養し皆其大意を説いて煩腦卽菩提と示し觀念して眼を閉念佛三昧あし常れは忽然として不動尊顯れたまい道譽ふ告て曰く善哉く其蛇身あそ越前守が妻の爲よ落命し身を變すといへども前生七世がその間無慈行欲にて六親九族をも地獄よ墮す是を救そんには印文を彼が額ふ授けあは得道して佛果を得ん印文功德と謂は人皇六十三代たる花山の法皇熊野の導よて觀音靈場を廻り玉ひし時間魔法皇も同行して極惡重罪を救ふ印文を傳へたり去れば今汝よ印文を授んとてぞり玉へば雲霧の晴たる如く光明赫々たり道譽は不思議よ有難く我手を見るよ明王より授かりし印文あり感涙して慈救の偈を修しあがら蛇身よ向つて印文を授けられは憤恚を燃せし蛇躰の姿忽佛身と變じ能滅無明黒闇大光明と唱へて佛果を得ること殊勝あり道

譽は本尊の利生ふより佛恩報謝の大慈悲を拜し當山に來つて其印文を後の世よ残さんと金印に寫して寶庫よ納める斯有難き寄得ゆへ越前守は小女の沈ら池を埋め一字を建立して龍澤山大願寺と號牛後ふ願を嚴と改む斯る利益の印文あれは當山寶庫よ納め置處衆人拜せんことを望む止ことを得す業障成菩提の爲あればとて寶庫を開き多千億の衆え拜授を與ふ是有信の輩本尊大慈大悲の徳にて現世安穩後世善處の基あらんと爾云

成田山不動明王略縁起

成田山不動堂開基自天慶三庚子年
明治二十七午年迄九百五十五年也

本院嵯峨御所別當神護新勝寺ト云

夫下總國成田山神護新勝寺之不動明王並み矜迦羅逝多迦の二童子

は弘法大師之御作ふして往古は洛陽の西高尾山神護國祚真言寺護摩の本尊や然るに此尊像を我山に安置し奉る由來を人王六十一代朱雀天皇之御宇平朝臣相馬小次郎將門東國にをいて權威をふるひをこりをなしひまゝにして下總國相馬郡石井の郷に新都をたて自号して平親王と云且帝都をかたむけ王位をうばわんとするの謀計もでに天聞に達しぬ主上大にげきりんましくてしきりに追討の宣旨を下し諸寺の高僧に命じて降敵の秘法を終せしめ給ふその中に廣澤の遍照寺の僧正寛朝を殊に勅命をかぶむり此尊像を奉持して船を難波の津に浮べ南海の波とうをしのぎ東のかた下總の海岸にちやくそと、に將門館へ遠からず近からず成田の里に一宇をかまへ尊像を安置して調伏の護摩を修める事とあたかも頭燃をはらふヶおとし降伏四魔の本誓あんがむあしからん敵軍たちまちに敗北してこゝに馳聘しかしこに徘徊せときに將門は平の貞

盛がはあつ箭に弓たつて馬よりをちるを見て 俵藤太秀郷はしりか
 つて首をはね朝敵終にほろびぬ是もつはら寛朝僧正の修功不動
 明王の威力によれり其のち僧正不動尊を奉持して歸らくせんとし
 たまふに尊像うごかざること猶ばんじやくのごとし僧正未曾有の
 おもひをあしすあわち手を合せまあこをとぢて至心にねんじたま
 へは夢にもやらず現にもあらず明王告てのたまはくそれ衆生無邊
 あれは我がねがいも無盡ありもへふふかく信ゆるものあれは所と
 して應せずとふとあし我こゑび王城よかへらんとを欲せずあり
 やくをほどこそべしと爾時に僧正聖言瞻にめいじかんるい袖をう
 るほ見て思へらく是大明王無其所居但住衆生心想之中の金言しん
 せせんと有べからずあふがすんと有べからずとモでにして帝都に
 かへるにおよんでつぶさよ此事を奏せ 主上叡感のあまりよ勅し

て伽藍を建立しそこばくの庄園を奇附し故山の寺號よじゆんじて
 神護新勝寺と號し東國鎮護の靈場をしたまふ抑當尊は神用無邊よ
 して靈驗もつとも多しあるいは女人產生の苦を止ぬがれ海士漂泊
 のあんをそくふ所持の寶鋤を項戴せしむれば乱心狂氣も立ところ
 よ止みねつひやう寒疾もそみやかよ愈もかくのごとくの奇瑞あげ
 てかがうべからず但し信心深からざるをバ除くつたへいふ總州生
 實大巖寺の開山道譽上人は天性愚鈍ふして學業の進みかたさとを
 歎きかつて此尊より歸依し參籠持念するを百日期限まんする夜の夢
 よ不動尊もちたまふ利鋤をのむと見て則さめたりさめてのち是を
 見れば黒き血あがれて床のほとりを穢せり然して後惠解人よそぐ
 れ遂よ大德智人もありたまふとぞしかしてよりこのかた別しては
 淨土一家の像と見てそ諸山負笈の客あるいと日をかさねて參籠し
 あるひと穀を絶て祈願くるもの其靈顯を蒙らずといふとあし

成田山一粒丸惣本家元祖成田山門前三橋吉兵衛製藥

第一急病の氣附小兒五疳驚風虫ねざみあわ

しき虫しきむし速座に下す事如神

御靈藥
成田山童子丸

八粒入 金五錢

麝香劑產前產後ヲ禁ス

宗吾義民丸

廿五粒入 金貳錢

第一症氣寸白一服藥●其他しびれ

仁之山氣病湯壹服

金五錢

其外虫むしくだし効あり麝香劑

產前產後ヲ禁ス

貢捌所

抑も成田山一粒丸と稱す

三橋吉兵衛始て調製販賣する所にして此御藥製造に望み成田

しるは安永六年拙家祖先

成田山

し毎歲三月五日より七日迄三日の間

成田山

に於て十箇座十萬遍大護摩脩行致し其の際へ供せし護摩御膳を以て丸ヒ上

セリ賣する者夥多有之候然れども惣本家たる拙家に於ては自ら旅人宿等へ三藥よせり賣等不仕尚類似の三

藥物本家元祖

達致し居り是に依て四方の諸君御參詣の節は

登録商標從來比鶴

は勿論三百六拾三番所有地三橋吉兵衛に御注目被下御購求の程奉上候

官許惣本家元祖門前成田山

叶

カバン製造

岩崎幸作

丸藤

小林

芳一

木

藤

岡要

秀

七郎清郎郎

三兵

郎衛郎

清郎郎

七郎清郎郎

清郎郎

清郎郎

清郎郎

清郎郎

清郎郎

清郎郎

所取次大所

東京神田區錦町壹丁目拾番地

千葉縣岩槻字太田町廿九番地

埼玉縣仙臺市元寺小路參拾四番地成田山丸石講出張所

駿河國藤枝町本町左車

福島縣磐城國三春大町百五拾七番地

其他諸國に取次所多有之候間御購求の節は印御覽の上御買求被下度候

里十五丁○宗吾一里十丁○酒々井一里三丁○佐倉一里半○白井二里○大和田三里九丁○舟橋二

里○千葉縣廳

里十五丁○成田山二里半○三里塚二里十五丁○芝山三里○高松二里○酒々井一里三十丁○馬渡四里

里○市川四里○日本橋十八丁○寒川二十丁○檢見川十八丁○馬加一里○久々田二十七丁○舟橋一里半○八幡三十一

里○木下里○木下里○布佐二里卅丁○芝原一里廿丁○滑川二里半○三里塚二里半○多古一里半○山倉

里○成田山三里八丁○滑川二里半○三里塚二里半○多古一里半○山倉

里○鹿嶋三里○成田山三里八丁○滑川二里半○三里塚二里半○多古一里半○山倉

里○成田山三里三里○小金一里卅丁○佐原二十丁○香取十九丁○津ノ宮八里一里

里○成田山五里○龍ヶ崎一里半○女化四里○土浦四里○石岡

里○成田山五里○龍ヶ崎一里半○女化四里○土浦四里○石岡

里○成田山五里○龍ヶ崎一里半○女化四里○土浦四里○石岡

里○成田山五里○龍ヶ崎一里半○女化四里○土浦四里○石岡

宗吾義民神通丸

廿五粒入 金參錢

仁之山口 中一切壹包

金參錢

諸君よ速に其言の虚ならずして效能の確實あるを知り玉はん事を

第一感胃の熱を解し又感冒より起る諸々の熱ある

病に用て特効あるは既に諸君の知らるゝ所也且當

全国各地に蔓延せる流行性感冒に用て大効あり希

其外せきより

成田山風拂

廿包入 金參錢

諸君よ速に其言の虚ならずして效能の確實あるを

知り玉はん事を

成田山風拂

廿包入 金參錢

諸君よ速に其言の虚ならずして效能の確實あるを

知り玉はん事を

成田山風拂

廿包入 金參錢

所次取薬製諸二並丸粒一山田成

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同東京深川公園
 縣縣縣縣縣縣縣縣縣玉縣川奈奈府京千小小向本深淺草田區本橋公
 稹北行田縣杉川川本深深熊越縣神崎川川下府住日石島石川草區黑並向川本町
 足田ヶ町戸越越庄庄ヶヶヶ浦奈町縣縣八下元向川本町黑並向川本町三江木柳原田
 在立在谷久久町谷谷谷和川成横橫王東四水區田丁道金富元自角七二町旅地
 南郡長村小保保上仲町町町町田瀧漢子多丁道金富元自角七二町旅地
 櫻井戶田成田成田成田八郡町亭木新町田八郡町所七榮二山日高成八ツ成地目
 物店越屋講良小番講丁前町赤番木調田登足
 上柳村行者薬香成道間地々目通宮崎村明丹丸山御積龍御足
 编輯兼發行者丹田具店久山十崎町成心本丸茶立
 明治廿七年四月五日印刷本鋪山屋店屋番山本鋪講屋
 千葉縣下石井義雄同年五月印
 印刷所成田町五百六拾三番所有地
 一三橋合吉兵社衛

會梗猪川中阿中藤酢古坂別圖木山內烏地小永新江大淺梅青貝上片小井武
 田野渡村部村野屋川本府下口田養山島講川林井原木屋村野堀坂田
 萬吉市久喜欣照由文庄榎吉爲鐵光金演
 五英十之喜榮十多五四四嘉半太幸久本正兵之五菊宏平
 郎喜郎助助吉郎吉郎郎平寺助郎助郎助作衛恭守衛助郎本助郎郎次
 美次宮福同同同同同同同同同同同同同同千伊伊愛三群上群群
 濃城城島望武芝總流流海香神佐香多香香豆勢知河馬州馬國總館縣高崎町
 國縣縣縣陀射山山山上取崎原取古取松佐佐印大船縣國國縣國總館縣高崎町
 各久仙石郡郡仁邊町町郡町町郡戶倉倉舗和橋船加奄北岡邑林高崎町
 移慈臺川金二王郡旭豐本宿吉成裏仲小在日町郡樂町郡堅町町成田
 郡郡郡田川曾大網町三百金四十物
 前袋卷中村村通町五百金十四物
 渡田町谷中字小池横中町田
 正文方賣藥商
 不動
 新井岩
 村新山町
 村田新町林吉市九稻栗郡成板町常盤町
 村田新町市新橋南日生真名田倉山
 村田町市田村町市田村町市田村町市田村町市田村町市田村町市田村町市田
 村中村出張所
 山
 千人講
 喜
 榎
 並
 祐
 吉
 門
 郎
 藏
 助
 吉
 次
 稅
 屋
 吉
 郎
 衛
 助
 七
 郎
 法
 吉
 誠
 屋
 助
 助
 藏
 郎
 助
 郎
 専
 吉
 郎
 所

富佐平瀬山江白向高山加高高朝管野鈴内高石布大市鈴九安土中西渡出
 藤松谷口波木坂崎瀬岡柳野谷々木田山草原木屋保屋島村邊屋
 榎並茂源戶彌野安伊利宮金橋川只重張
 祐祐右平之未平主宇太兵太兵藤豊次智數貞彌妻庄要四宥音太山
 衛衛吉門郎藏助吉次稅屋吉郎衛郎衛助七郎法吉誠屋助助藏郎助郎專吉郎所